

15<sup>TH</sup>  
Anniversary

開館15周年

花巻市  
博物館

目次／P1 開館15周年特別展「発掘された日本列島2019」開催／P2-3 収蔵資料展「どうぶつ集合！」／P4-5 特別展「発掘された日本列島2019」について／P6 活動レポート「GWの体験講座について」・先人コーナーリニューアル／P7 館長コラム・行事予定・インフォメーション／P8 花博コレクション



だより

2019. 8  
No. 58

地域展示  
花巻城  
南部領の  
成立と展開

開館15周年特別展

発掘された  
日本列島  
新発見考古速報 2019

8.2 (FRI) → 9.10 (TUE)

会期中無休

EXHIBITION OF EXCAVATIONS  
IN THE JAPANESE ARCHIPLAGO 2019

〔土偶（白神山地東麓縄文遺跡群）・土製耳飾り（エリ穴遺跡）〕

日本列島では、毎年8,000件近い発掘調査が行われています。しかし、その成果に実際に触れる機会は限られているのではないのでしょうか。

文化庁は、全国的に注目を集めた発掘調査成果を速報で紹介し、より多くの方にご覧いただき、埋蔵文化財への親しみやその保護の重要性に関する理解を深める機会とするため、全国を巡回する『発掘された日本列島』展を平成7年度から実施しています。

このたび、花巻市博物館では開館15周年を記念して、特別展『発掘された日本列島2019』を開催します。当館での開催は、開館初年度の2004年夏以来、15年ぶり2回目となります。再び花巻にやってきた列島展を多くの方にご覧いただけましたら幸いです。

# 収蔵資料展 どうぶつ集合！

期間：令和元年9月24日（火）～11月17日（日）

歴史を振り返ると、時に人間のパートナーとして活躍し、ある時には祈りの象徴として存在するなど、はるか昔から人間の暮らしのそばには様々な動物たちの姿がありました。

人間との関わりが深いからこそ、動物たちの姿は、絵や彫刻、玩具やマークなど様々な場面で用いられてきました。本展覧会では、当館が所蔵する動物に関する資料を通して、動物と人間の関わりについて探っていくと共に、花巻の歴史や美術・工芸品を紹介します。

## ■身近などうぶつたち

### 【猫 - ねこ】



花巻人形 鯰抑え猫

空前の猫ブームを迎え、多くの家庭でペットとして飼われている猫ですが、日本では古くから、愛玩動物として人間と共に暮らしていました。

また、養蚕農家の人々にとっては、蚕を食べてしまう鼠を退治してくれる存在として、養

蚕の神として信仰されていました。

その一方で、老猫が化け猫となり、言葉話をしたり、人間を襲ったりする怪異譚<sup>かいいたん</sup>が存在します。江戸時代には、こうした化け猫を題材にした歌舞伎が繰り返し上演されるほど、人気の演目でした。

不思議だけれども、可愛くて身近な存在の猫。花巻人形にも様々な姿の猫を見ることが出来ます。例

えば、右前足でナマズを抑えつけて得意げな顔を見せる『鯰抑え猫』。古来、鯰が暴れると地震が起きると言われていました。その鯰を抑えつけた猫の人形には、地震を抑制したいという人々の祈りが込められています。

### 【兎 - うさぎ】



八重樫豊澤 『兎図』

長い耳やふわふわの体毛が可愛い兎。日本にいるニホンノウサギは本州から九州までの日本中の野山に数多く生息していて、食用として親しまれていました。それだけでなく、太平洋戦争の頃には軍隊の防寒服や手袋・耳当てなどを作るために、全国でノウサギが捕獲されました。

大きな耳をピンと立てて、丸い

目で崖下をのぞき込むような姿を描いた『兎図』<sup>うさぎず</sup>。作者は、花巻出身の画人・八重樫豊澤（1763～1842）です。中国の故事からとった人物画や、山水画を得意としました。『兎図』は、豊澤が74歳の時に描いたものです。

【鷹 - たか】



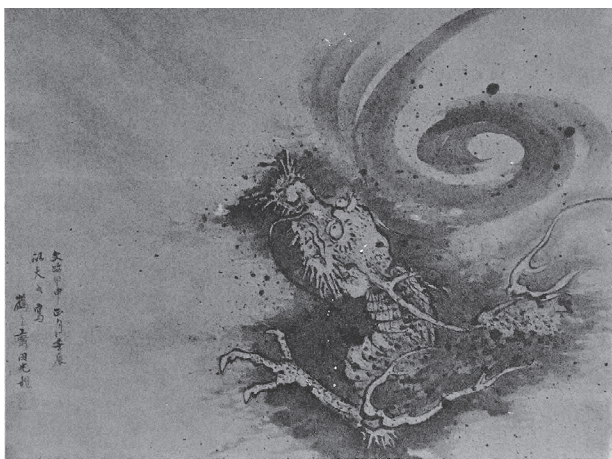
ゆかわぎよくせん  
湯川玉僊

たかずびようぶ  
『鷹図屏風』

かつて日本では、公家や将軍家、諸大名などの権力者たちが好んで「鷹狩り」を行っていました。「鷹狩り」とは鷹の採餌行動の特性を利用して、飼育している鷹を放してノウサギやキジ、小鳥などを捕らえさせるものです。安土桃山時代から江戸時代に特に流行し、盛岡藩では鳥見役に藩領内の渡り鳥を監視させ、在藩中の歴代藩主が鷹狩りに出かけていたことが記録されています。

## ■伝説のいきものたち

【龍 - りゅう】



たくさりかくりゅうさい  
田鎖鶴立斎 『龍図』

天と地を自在に行き来し、水を支配する霊獣です。川や池、湖の主となり、田畑に水をもたらす五穀豊穡の神として信仰されています。その一方で、荒ぶると雷や嵐を引き起こすため、人々から恐れられる存在でもあります。

■特別展示－南部家の宝・鳥の形の太刀



鷹頭御陣太刀拵（左）鳳凰御陣太刀拵（右）  
（共に岩手県指定有形文化財）

南部家に伝来した「鷹頭御陣太刀拵」<sup>たかがしらごじんたちごしらえ</sup>と「鳳凰御陣太刀拵」<sup>ほうおうごしらえ</sup>は、鷹や鳳凰といった鳥の頭を模した柄頭が特徴的です。また、鞘にも羽模様が表現されており、非常に豪華なつくりになっています。

『諸職人被召出并御賞書上』によると、鳳凰御陣太刀拵は、盛岡藩7代藩主南部利視の命を受けた鞘師の又兵衛と、金具師の九蔵が1730（享保15）年に仕上げたとされ、鷹頭拵と対になるように制作されたものです。

(学芸調査員 松橋香澄)

## ■ 関連事業

▽ワークショップ「台焼染付体験」(要申込)

講 師：五代目台焼窯元 杉村 峰秀 氏

日 時：10月26日（土）13時30分～

材料費：1,500 円

▽ギャラリートーク

日 時： 9月28日（土）13：30～

10月12日(土) 13:30~

開館15周年特別展

# 発掘された日本列島2019

期間：令和元年8月2日(金)～9月10日(火)

本展では、「新発見考古速報」として旧石器時代から近代までの全国 12 遺跡 473 点について速報で紹介いたします。また、特集展示では「福島の復旧・復興と埋蔵文化財」「記念物 100 年」の2テーマを特集します。さらに、地域の特色ある埋蔵文化財を紹介する地域展示「花巻城―南部領の成立と展開」では、東北近世の幕開けの契機となった豊臣秀吉の奥羽仕置に着目し、花巻やその周辺が中世から近世へと移り変わる様相について、発掘された城館遺跡の成果を通してたどります。

本展を通して日本列島の多様な歴史文化に触れ、埋蔵文化財の新たな魅力を発見する機会となりましたら幸いです。

## ◆新発見考古速報

### 《旧石器時代》

墨古沢遺跡（千葉県酒々井町）では、旧石器時代の集落として日本最大級の大型集落跡が発見されました。出土した石器の石材の中には、長野県など遠方から運ばれたものもあり、当時の人々の生活・交流範囲の広さを物語ります。

### 《縄文時代》

白神山地東麓縄文遺跡群（青森県西目屋村）とエリ穴遺跡（長野県松本市）を紹介します。

世界自然遺産の白神山地の麓にある白神山地東麓縄文遺跡群は、縄文時代1万年の歴史を示す 17 遺跡から構成される遺跡群です。発掘調査により、今もなお岩木川源流域に広がる豊かな森の恵みを背景として、1 万年以上もの長きにわたり、この地が連綿と利用されたことが分かりました。



(左)人面付注口土器  
(右)ヒスイと緑色凝灰岩製の玉類  
〔白神山地東麓縄文遺跡群〕

### 《弥生時代》

郡遺跡・倍賀遺跡（大阪府茨木市）と山ノ口遺跡（鹿児島県錦江町）を紹介します。

郡・倍賀遺跡は、160 基以上の方形周溝墓を伴う弥生時代の集落です。方形周溝墓の周溝から、多くの土器とともに、こけし状の人形土製品や石剣、大型石包丁など多様な遺物が出土しました。これらは、方形周溝墓の周りで行われた儀式を検討する資料として注目されるものです。



人形土製品〔郡・倍賀遺跡〕

### 《古墳時代》

金蔵山古墳（岡山県岡山市）と行基平山頂古墳（栃木県足利市）を紹介します。

4 世紀後葉の築造と考えられる金蔵山古墳では、古墳の付属遺構から家形埴輪や円筒埴輪で囲む配置で発見されました。家形埴輪の中には、床面に導水施設が表現されたものもあり、被葬者が行った水の祭祀を表すと考えられています。このように、当時の有力者の祭祀や居館の様子をうかがい知ることができる貴重な発見となりました。



家形埴輪と円筒埴輪〔金蔵山古墳〕

### 《古代》

青谷横木遺跡（鳥取県鳥取市）とケカチ遺跡（山梨県甲州市）を紹介します。

ケカチ遺跡出土の和歌が刻まれた「和歌刻書土器」は、日本初発見の資料です。この土器が製作された 10 世紀は、国内最古の勅撰和歌集『古今和歌集』が編纂され、日

記文学の『土佐日記』が仮名文字で書かれるなど、平仮名の成立と普及の画期と重なります。この土器は、地方における仮名文字の使用と普及状況を示す貴重な資料です。



和歌刻書土器[ケカチ遺跡]

#### 《中世》

岩櫃城跡(群馬県東吾妻町)は、16世紀代を中心として主に甲斐国の武田氏や信濃国の真田氏が管理・運営した広大な山城です。発掘調査により、山城の具体的な構造と変化、そして廃城の様子が判明し、武田氏や真田氏の城館構造やこの地域の流通などへの影響範囲を知る上で重要な成果が得られました。

#### 《近世》

東宮遺跡(群馬県長野原町)では、江戸時代の浅間山噴火に伴う「天明泥流」によって一瞬にして埋まった村の姿が発見され、被災直前までの当時の日常と緊迫した状況が明らかになりました。

団扇の出土状況  
[東宮遺跡]

#### 《近代》

富山城下町遺跡(富山県富山市)では、昭和20年(1945)の富山空襲で罹災した陶器商「太田陶器店(太田商会)」の跡地から、破片で4,510点を超える大量の酒盃が出土しました。この盃の中に、昭和15年夏に開催予定であった、幻のオリンピック東京大会の開催決定を記念して製作された「オリンピック記念盃」がありました。一方で、兵隊を絵柄とした盃もあり、オリンピック開催辞退の原因ともなった戦局の悪化という昭和初期の世相も同時に反映している貴重な歴史資料です。

出土した酒盃 [富山城下町遺跡]  
※左奥完形品は個人所蔵

### ◆特集1 《福島県の復興・復興と埋蔵文化財》

今もなお復旧復興事業が続く、被災地の埋蔵文化財と保護に関する取り組みを紹介します。そのうち、福島県沿岸部にある浜通り地域の展示では、海の道と陸の道によって各地と結ばれ、個性豊かな文化を育んできた魅力ある遺跡



大堀相馬焼 [大堀長井屋窯跡]

と遺物を紹介します。

### ◆特集2 《記念物100年》

2019年は、日本において文化財を保護するための制度ができて、ちょうど100年の節目の年にあたります。これを記念して、記念物の保護と重要性を広く周知することを目的として記念物100年の歩みを紹介します。

遣り水での曲水の宴  
[特別名勝毛越寺庭園]

(学芸員 高橋静歩)

#### ■関連イベント

▽オープニングイベント **申込不要、観覧無料**

「ユネスコ無形文化遺産 早池峰神楽 大償神楽」

日時：8月2日(金) 13時30分～14時30分

場所：エントランスホール

▽記念講演会 **申込不要、聴講無料**

「発掘された日本列島2019の見どころ」

講師：藤井幸司氏

(文化庁文化財第二課埋蔵文化財部門文化財調査官)

日時：8月3日(土) 13時30分～15時

▽special ギャラリートーク **申込不要、要観覧料**

「知られざる列島展の魅せ方」

講師：桃井宏和氏

(公益財団法人元興寺文化財研究所研究員)

日時：8月17日(土) 13時30分～14時30分

場所：企画展示室

▽考古学講座 **申込不要、聴講無料**

①「岩手と福島の復旧復興事業と埋蔵文化財調査」

講師：杉沢昭太郎氏

(公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター文化財専門員)

日時：8月10日(土) 13時30分～15時

②「花巻城跡発掘調査のあゆみ」

講師：菊池賢氏

(花巻市総合文化財センター主査(学芸員))

日時：8月25日(日) 13時30分～15時

③「花巻の中世城館を歩く」

講師：中村良幸氏

(花巻市総合文化財センター文化財専門員)

日時：9月7日(土) 13時30分～15時

☆記念講演会、考古学講座の場所は講座・体験学習室です。

☆そのほか、ワークショップ、ギャラリートークを開催します。

詳しくはP7をご覧ください。

## 活動レポート

## 楽しく活動！GW体験講座

花巻市博物館では体験学習として、5月3日（金）から6日（月）の間に、

- ・ 3日 勾玉づくり
- ・ 4日 琥珀玉づくり
- ・ 5日 縄文弓矢・火起こし体験
- ・ 6日 プラ板キーホルダーづくり

を行いました。

3日は、子ども 13 名、大人 4 名の計 17 名が勾玉づくりを行いました。その他に大人の方 9 名が、子どもの付き添いとして体験講座室にいらして、子どもが勾玉をつくる様子を見たり、時々手伝ったりしていました。小学校 1 年生の子や小学校就学前の児童も参加しましたが、その子たちも最後まで粘り強く制作に取り組んでいました。



勾玉づくりの様子

4日の琥珀玉づくりは、琥珀玉の材料が勾玉の時よりも堅いようで、自分の作りたい形に削るのに苦労している様子でしたが、最後には自分の力作の琥珀玉を首から下げ、にっこりしていました。



5日の縄文弓矢・火起こし体験には、親子で合計 40 名の方々が参加くださいました。この日の体験にはお父さんの参加も多く、火起こし体験では、息を切らしながら舞いきり（火を起こすための道具）を動かしている方もいらっしゃいました。

一人で挑戦！  
姿がきまっています。



こちらはお父さんが  
頑張っています。

お父さんと一緒に的を  
ねらっているところです。



6日のプラ板キーホルダーづくりは、連休最終日ということもあり、参加者が少なく 5 名でしたが、わきあいあいと楽しく体験を進めることができました。参加者の中には、4 日間ずっと参加したというお子さんもいて、主催者側としてうれしく思いました。



犬と今年の干支「イノシシ」のプラ板ができました。  
親子でツーショット！

### 花巻市博物館

### 常設展示「先人コーナー」展示替え

花巻市博物館は、今年開館 15 周年を迎えました。常設展示のさらなる充実のため、昨年より少しずつリニューアルを進めております。

先人コーナーの展示では、金田一國士、多田等観、伊藤敦子について紹介していましたが、今年度、5 月 22 日に展示替えをおこないました。

内村鑑三の弟子となり、キリスト教徒としての生き方を生涯貫いた斎藤宗次郎、岩手日報「中興の祖」と呼ばれ、岩手の新聞業界に多大な功績を残した後藤清朗、ホームスパンに美術的な価値を与え、工芸品にまで昇華させた及川全三の三人の先人について紹介しています。



「大地に根ざした人づくり」の展示コーナー

## 館長 コラム

### 観音菩薩

多田等観がチベットから請来した多くのチベット仏教関係資料の中に琥珀製仏龕と土製の十一面観世音立像がある。仏龕は、携帯用の仏壇のようなもので、直径5cm 弱の丸い形をしており、長さ約1mの革紐が付けられている。龕の真ん中には、直径2cm程の窓が開けられ中に小さな十一面観世音立像が収められている。

多田等観が、約十年間のチベットでの修行を終え、外国人では初めてのゲシェ（仏教博士）の称号を得て帰国することになった時、当時チベットの国王でチベット仏教の法主でもあったダライ・ラマ十三世から下賜されたものである。十一面観音立像は、ダライ・ラマ十三世自身が制作したといわれている。また、琥珀は、中国では古くから虎が死んで石になったものと信じられ珍重されてきた天然樹脂の化石である。中国の産地は、数か所知られているが、雲南産の可能性が高い。

チベット仏教におけるダライ・ラマは、観音菩薩の化身と考えられており、チベットの中心地ラサには、ダラ

イ・ラマの住むポタラ宮殿とノル布林カ離宮がある。ポタラ宮殿のポータカラは、観音菩薩の理想世界のことで、日本における補陀落浄土のことをいう。また、ノル布林カ離宮のノルブとは、如意宝珠を表し、リンカは宛を意味し、観音菩薩の肉面的な徳を表現した言葉とされている。

多田等観が帰国前日にノル布林カ離宮を訪ね、お別れの挨拶をした時、ダライ・ラマ十三世の手印と玉璽を押したカタ（絹布）と共に旅の安全を祈願して賜ったのが琥珀製龕に入った十一面観音立像である。

多田等観の帰国後まもなく関東大震災が起こる。等観は、ダライ・ラマ十三世から被災見舞いの手紙をいただき、返事に「チベットから戴いて持ち帰った物は、何一つ損なうことなく保存出来ていて、罹災をまぬがれております」と書いて送る。それに対しダライ・ラマからすぐ返事が来て、「お前は日頃からラマを大切にしているから、その報いによって何の障害も起こらなかったのだ」と書かれていたという。等観は、その因果関係は、私には分からなかったが、気持ちの上では、何かが守ってくれているという気がしてならなかったと記している。

（館長 高橋 信雄）

## 行事予定

2019年11月  
2019年8月

### 企画展示室

#### ●開館15周年特別展

「発掘された日本列島2019」

会期：8月2日(金)～9月10日(火)

同時開催

地域展示「花巻城—南部領の成立と展開」

#### 【関連イベント】

記念講演会、考古学講座については、P5にて紹介しています。詳しくはP5をご覧ください。

#### ◇ギャラリートーク「展示解説」(要入館料)

日時：8月4日(日)、11日(日祝)、12日(月振)、18日(日)、25日(日)、9月1日(日)、8日(日)

※8月中は11時～12時、9月中は14時～15時に実施予定です。

場所：花巻市博物館 企画展示室

#### ●テーマ展「収蔵資料展 どうぶつ集合！」

会期：9月24日(火)～11月17日(日)

### 講座・ワークショップ

#### ◇館長講座「南部領の街道と藩境」

日時：8月24日(土) 13:30～15:00

#### ○ワークショップ「ミニチュア土器づくり」

日時：8月4日(日)

場所：花巻市博物館 講座体験学習室

定員：10名 材料費：250円 ※要申込

#### ○勾玉づくり

日時：8月11日(日祝)

定員：20名 材料費：340円

#### ○琥珀玉づくり

日時：8月12日(月振)

定員：20名 材料費：810円

#### ○プラ板キーホルダー作り

日時：8月18日(日)

定員：20名 材料費：プラ板1枚100円

※内容に変更がある場合があります。

※ワークショップの時間は、全て13時30分～15時

## 花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松 26-8-1

電話：0198-32-1030 FAX:0198-32-1050

開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで

休館日：12月28日から1月1日まで

|     |         |           |
|-----|---------|-----------|
| 入館料 | 小学生・中学生 | 150(100)円 |
|     | 高校生・学生  | 250(200)円 |
|     | 一般      | 350(300)円 |

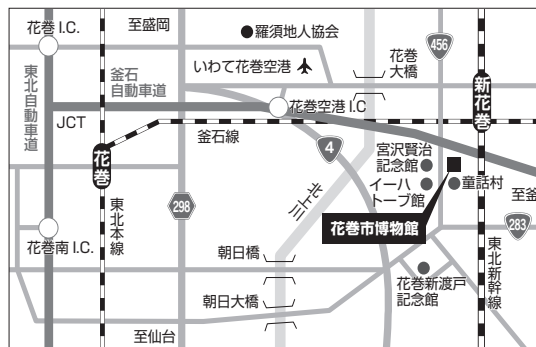
※( )内は20名以上の団体割引料金

※割安な近隣4館共通券もあります。

※特別展示を行う場合、入館料を定める場合があります。

### 交通案内

- 東北新幹線  
新花巻駅より車で3分
- 東北本線  
花巻駅より車で約15分
- 釜石自動車道  
花巻空港 I.C.より車で約5分
- バス  
新花巻駅より約5分  
岩手県交通 土沢線  
イトーヨーカドー行  
賢治記念館口下車



◇URL <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/hanamakisihakubutukan/>

# 花博 コレクション

Hanahaku collection



↑『庫理遺跡出土須恵器長頸瓶 3 点』  
(高さ 小 22、中 32、大 42: 単位 cm)



↑『水鳥戯画線刻文土器破片4点』



↑魚?をついばむ水鳥



↑この模様、何に見えますか?

## 庫理遺跡出土須恵器長頸瓶3点及び水鳥戯画線刻文土器破片4点

庫理遺跡は、花巻市宮野目田力地内にある平安時代後期ごろの遺跡です。

須恵器長頸瓶は、遺跡内で発見された竪穴住居内から一括して出土しました。多くが祭祀用とされる須恵器長頸瓶では珍しい出土例です。

さらに別の竪穴住居のカマド煙道（煙を出すための穴）から出土した土器破片には、水鳥や小動物（魚?）、不思議な文様が線刻されています。このような文様が残る古代の土器の例としては全国的にも珍しいといわれています。岩手県内での類例が見られず、また、その他の部分の破片が発見されなかったため、この土器の全体像はいまだにわかりません。

庫理遺跡出土須恵器長頸瓶 3 点と水鳥戯画線刻文土器破片 4 点は、平成 17（2005）年 3 月に花巻市指定有形文化財（考古）に指定されました。これらは、現在、常設展示室に展示されています。

（学芸員 岡本雅子）